

ついに九州の頂点に

熊本県勢として初制覇

5人競技では最少スコア

《第52回九州インタークラブ競技》

通算7オーバー 367

熊本空港カントリークラブ



他を寄せ付けない圧倒的な強さだった。2位に12打差。1チーム6人のうちベスト5人のトータルでは過去最少となる7オーバー367。コースは異なるが、昨年のフェニックスCC（宮崎）の優勝スコア384と比較しても、その強さが光った。

「優勝盾は嬉しいね。一桁のスコアは信じられない。熊本県として長年の積み重ねが優勝につながった。私も少しは貢献できたかな」と熊本県ゴルフ協会会長の要職に就く小杉康之（65歳）が感慨にふける。インタークラブの予選からでは35年近く連続出場しているという。この日はラウンドの後半に左手の痛みを覚えながらも2オーバー74で回った。息子の康太が腰痛で途中棄権したため「やめられん」と完走したのだった。

「前半、みんな良かったので頑張れば優勝できるかな、とっていた。兄貴（康太）がああなって『打てないな』と慎重になったのが良かった。個人で勝つより嬉しい。高村さんが（熊本）空港に来たのが大きい」とは小杉ファミリーの1人・竜三（37歳）である。今回で8回連続出場。ポイントゲッターとして4バーディー、4ボギーのパープレー72でチームに貢献した。

竜三の言う高村博臣（40歳）は今年からメンバーの一員に加わった。チームの期待に応え、2バーディー、2ボギーの72。個人では竜三とともに4位タイに食い込んだ。「初のメンバーだし、プレッシャーもあり、足を引っ張らないように心掛けた。とにかく1ホールずつパーで上がろう、と。（アウトもインも）36・36は予定通りでした」とポイントゲッターの責任を果たし、肩の荷を下ろした。

九州の中でも「ゴルフどころ」と知られる熊本県は、今回の予選も福岡県に次ぐ2位の33チームが参加。多くのプロゴルファーも排出しながら、なぜかインタークラブの優勝には縁がなかった。ついに他県の仲間入りを果たした。

《ベストグロス賞》

湯浅 幸一（愛野、63歳） 2アンダー70



178cm、83kg。ドライバーの平均飛距離280～290ヤードを誇る飛ばし屋・湯浅幸一がベストグロス賞を獲得した。4バーディー、2ボギーの2アンダー70。「初めて結果が出た。まさか取れるとは」とポツリ。ゴルフは48歳から始めた。高校まではサッカー、その後はモトクロスの選手として

全日本の大会にも出場した。長崎県大村市の自宅には50坪のグリーンを造り、アプローチとパターの練習に励む。60歳を過ぎても「たまには300ヤード超え」のドライバーショットを武器にする湯浅に注目！

《長崎国際GC》

